

アセスメント・シート（初回）

平成 ○ 年 12 月 ○ 日

記入者 ○○

（事例1「保護者の福祉支援を要するケース」の例）

4 年 ○ 組 ○ ○ A 男 男		ケース会議参加者 校長・教頭・担任・教育委員会職員・福祉課担当職員・生活支援センター職員・SSW												
○ 年 ○ 月 ○ 日生 10歳 担任 ●●														
気になること		本児童は完全不登校状態であり、兄も不登校である。家族も地域とのつながりが弱い。												
＜アセスメント（情報収集）＞														
過年度の出欠（特記事項）		[1年] 遅刻3 欠席5 [2年] 遅刻10 欠席15												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	備考
前年度 遅刻						3	5	4	3	0	0	0	15	1月から完全不登校
前年度 欠席						7	10	8	12	16	19	16	88	
今年度 遅刻	0	0	0	0	0	0	0	0					0	完全不登校
今年度 欠席	17	19	21	14	1	21	21	18					132	
家族関係図												備考 生保就援、関係機関等 父親：雇用保険の適用中 母親：身体障害者手帳所持、年金受給中（福祉課）		
エコマップも併せて活用すると、関係性がより明らかになります。														
本人の状況	成育歴	B市にて出生。同年にC市へ転居。本児童が幼少の頃から両親は喧嘩が絶えず、何度か離婚復縁を繰り返す。平成〇〇年、離婚のためD市へ転居。平成〇〇年夏に両親が復縁し、E市へ転居して現在に至る。												
	幼少期の時の状況	検診などで発達の課題を指摘されたことはない。両親の不和のためか、情緒的に不安定になる様子が時に見られたという。D市に住んでいた頃は通学もできていて、D市には現在も交流が続いている親しい友人もいる。												
	現状	平成〇〇年、本児童が小学校3年生の頃にE市へ転入。当初は断続的に通学していたが、年明けから完全不登校になった。学級担任からの話では、家にいることが多く、同じく不登校状態の兄とテレビゲームなどをして遊んでいるとの話である。D市にいる友人とは連絡を取っており、時々遊びに行っている。												
家庭状況	家の様子	転居の繰り返しに加え、母親が人との関わりを苦手としているため、近所づきあいがなく、地域とのつながりがとても弱い。両親の仲は、今は落ち着いている。しかし、父親が失業したことで収入が減少しており、経済面での心配が残る。家族4人全員が家にいる状況である。												
	父の状況・意向	体はあまり強くなく、体調を崩して数ヶ月前に失業し、現在は求職中。本児童のことを心配しているようであるが、基本的に子育ては母親任せだったため、状況を積極的に改善していこうという意識が薄いように思われる。												
	母の状況・意向	現状を改善したいという思いは強いが、自力では難しいと認識しているため、自分の息子に対する公的な機関からの援助を受け入れることはできる。ただし、対人関係についての不安が大きく、他者への不信感を募らせてしまう。												
	きょうだい	中学2年の兄も不登校である。アニメやマンガ、テレビゲーム等が大好きで、兄の担任が母親から聞いた話では、普段も外に出て行くことがなく、家にこもりきりだという。弟より引きこもり傾向が強い。弟とは仲が良く、一緒に遊ぶこともある。												
	その他の関係者	両親ともに祖父母とはあまり交流がなく、親戚づきあいなどもない。												
学校生活	本人の印象	年齢の割に大人びた感じの印象を受ける児童。大人に対してかなり生意気な物の言い方をする時と、とても子どもっぽい時があり、同じ児童だとは思えないくらい様子が変わることがある。												
	気になる様子	平成〇〇年に本児童が転入してきた当初から、学校そのものへの興味が薄い印象があった。学校で積極的に友だちを作ろうという姿勢や学習に対する意欲が見られなかった。												
	これまでの指導・支援の経過	学校が家庭訪問を継続する中で、本児童は担任と時折顔を合わせることはできていたが、登校や学習への意欲は示さなかった。また、母親は対人関係についての不安が大きく、他者への不信感を募らせてしまう傾向があるため、保護者と学校の信頼関係がまだ築けていない。												
	友人	D市に親しい友人あり	クラブ活動	なし	進路希望	特になし								